評価資料③　**浜田養護学校　グランドデザイン実現に係る成果と改善点**

教育目標　　児童生徒一人一人の自立と主体的な社会参加を目指し　生きる力や豊かな人間性を育む

育てたい資質・能力

	知　力 しっかりかんがえる				ふるまい あいさつ　おもいやり				達成力 さいごまでやりとおす	協働力 ちからをあわせて		貢献力 みんなのために
	小学部	中学部	高等部	寄宿舎	小学部	中学部	高等部	寄宿舎	小学部	中学部	高等部	寄宿舎
目標	・経験を積み重ねることで、自分なりに工夫しながら活動し、さらに興味・関心を拡げる。	・学習や生活上の課題に気づき、調べたり考えたり話し合ったりしながら、自分のできることをやってみようとする。	・身の周りの事象に課題意識をもち、これまで身につけた知識や技能を活用したり、応用したりして課題解決に向けて取り組む。	・自らの生活を豊かするために、必要な知識や技能を学習会や日々の生活で身につける。	・自分からあいさつをしたり返事をしたり決まりを守って遊んだりする ・部分的な支援で身の回りのことをする。	・学校生活や地域生活のルールやマナーを守り相手の気持ちを意識して行動する。 ・日常生活において、自分のできることに自分から取り組む。	・社会生活の中のルールやマナーを守り、誰もが安心して過ごすためのふるまいについて考え行動する。	・場に応じたあいさつや思いやりを持った言葉づかいをする。	・自分の目標をもって挑戦したり、自分の役割を理解し、部分的に支援を受けながら最後まで取り組んだりする。	・気持ちや考えを適切な方法で伝えたり受け止めたりしながら、友だちと1つの事を一緒に行う。	・学校や地域の一員として、課題解決のために何ができるかを考え自ら実践する。	・お互いの生活がよりよくなるように、みんなのために自分のできることを考え取り組む。
具体的方策	各学年の地域とかかわる学習において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善をする。	地域とかかわる学習活動シートや授業シートを活用し、生徒が「何を学んだか」を明確にした授業実践を行う。	生徒中心の学ぶ教育の視点から、発達段階に応じた支援と対応をし、全ての生徒の学びの充実を図る。	年間を通して防災、健康、食事マナーなどの勉強会を行う。	特別の教科 道徳のねらいをふまえた授業実践を行う（B主として人との関わりに関すること）。	相手のことを思ったり、互いの思いを知ったりして、友だちの気持ちや立場に立って考える機会を増やす。	あいさつでは、語先後礼の良さを伝える。 多様性の意識や、相手のことを考える力が高まる取組を行う。	相手や場に応じた挨拶やコミュニケーションを図る場面（終礼・行事）を設定する。	児童一人一人に合わせてキャリアパスポートを活用し、学習の様子や成長を見える化することで、児童の学びや変容を児童、保護者と共有する。	終礼時及び学部行事後に自分や友だち、活動等の「良かったこと」や「好きなこと」等を生徒が振り返る時間を設け、自他共に理解をする機会を増やす。	地域との連携、協働した学習において、「ESD」の視点から授業改善をする。	アンケートや舎生会を通して、みんなのために自分ができることを考える場を設定する。みんなのためにやっている活動や行動を掲示して紹介する。
成果	地域とかかわる学習を計画的に進め、思考を引き出す取組を行った。学習を通じて、工夫や選択することを楽しみながら活動する姿が見られた。地域との交流が児童の積極的な参加を促し、地域文化を身近に感じる機会となった。	授業シートを改善し授業に活用した。生徒が何を学んだのかを確認しながら授業実践をすることができた。地域との学習のまとめのシートの「誰に何を伝えたいか」の項目に、生徒がしっかりと記入した。	生徒中心の学ぶ教育に転換していくために、7割の教職員が発達段階に応じた支援と対応が概ねできたと感じている。生徒アンケートでは、7割の生徒が授業内容の理解や楽しさについて肯定的な回答をしたが、学習に自分から進んで取り組んだと答えた生徒は5割だった。	避難訓練や健康指導、食についての勉強会を定期的に行い、生活を豊かするための必要な知識や技能を身につけることができた。保護者、教職員の9割以上が、必要な知識や技能を主体的に身につけようとしていると感じている。	誕生会や性に関する指導等では、道徳教育の観点をふまえて取り組んだ。誕生会では、児童の得意なことや好きなことを活かした係分担をすることで意欲的に活動したり、性に関する指導では自分や相手を大切にすることを学んだりした。児童が相手を意識し、思いを伝える姿が見られるようになった。	単元で扱う道徳の内容項目を確認をしてから授業づくりをすることができた。内容の理解につながるよう生徒の実態に応じて支援を工夫した。少しずつではあるが生徒が自分のことや相手の思いを考えるようになってきた。	語先後礼を中心にふまいの質を高めたかったが、意識できた生徒は7割であった。語先後礼の意義を生徒に伝えられた教職員も7割に留まったものの、社会生活のルールやマナーについて考える時間を定期的につくることができた。課題は残るが、相手を思いやる姿も見られるようになってきた。	ろう学校の生徒との関わりでは、伝え方を配慮しようとする姿が多く見られた。また、朝夕や舎生会、学習会の時の挨拶など、場に応じた挨拶ができていると保護者、教職員ともに感じている。	児童が目標を意識できるように、教室に目標を掲示し日々確認したり、できたらもらえる「花丸」を貯められるようにしたりした。自己評価の場面では、教員と対話を通して自分の頑張りを振り返ることができた。学期末に成果発表をし頑張りを認め合う場面を設定し、次への意欲につなげることができた。	活動後には生徒個人の感想等を聞き、個々の意見を全体へフィードバックしながら、活動を改善するようにした。自分の意見が大切にされていることを感じ、目標の設定やアンケートの記述などに変容が見られた。	生徒アンケートでは、6割の生徒が地域で自分の力を生かすことができたと回答した。1学期と比較して2学期のアンケート結果で肯定的回答が増したため、地域連携センターと連携をとりながら活動を改善し、主体的に活動した生徒が増えたと考えられる。	友達のよいところ見つけてコメントを掲示する取組を通して、友達のよい行動に気づくことが増えてきた。各学期のアンケートも、友達に関する記述が増えてきた。それに伴い、みんなのためにできることを意識し生活する様子が見られるようになってきた。
教職員評価	3.5	3.5	3.2	3.5	3.5	3.4	2.9	3.2	3.4	3.4	3.2	3.3
保護者評価	3.4	3.9	3.0	3.7	3.6	3.8	3.1	3.7	3.6	3.9	3.0	3.9
外部評価	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.5	3.4	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7

4：そう思う　　3：ある程度そう思う
2：あまり思わない　　1：全く思わない

ＥＳＤ(Education for Sustainable Development)　持続可能な社会の創り手の育成をめざす

未来のためにできること　その一歩を　はまようから

みんなが住みやすい町にしよう
（人権・福祉・消費・防災
健康・平和・労働）

自然を守ろう
（環境・資源・エネルギー
・気候変動・生物多様性・海洋）

伝統文化を受け継ごう
（地域の文化財～石見神楽・郷土料理・
方言・華道茶道・石州瓦・石州和紙～）

教育課程

	具体的方策	成　　果	教職員評価	外部評価
（R6重点目標）主体的・対話的で深い学びを展開し、学びの定着を図る				
学習支援部	学びの定着を図るための授業づくりや学びの振り返りの仕方について情報提供する。	学びの定着を目指し、障がい特性に応じた支援ができるように自立活動の研修会を実施した。学びを振り返る授業シートを作成した学部もあった。授業づくりについて、小中学部では教科書や指導書の活用、高等部では道徳の実践を推進した。教科等検討会を活用して、学習内容表の作成、見直しについて意見を集約した。	3.3	3.7
研修部	深い学びを支える授業づくりにおいて共通理解、確認したい内容について項目立てて提示する。	深い学びができるように、授業づくり確認表を用いて授業の構成や手立ての改善案を検討することができた。児童生徒の思考を想定しながら、児童生徒主体の授業になるように各研究グループで協議し実践につなげることができた。	3.5	3.9
（R6重点目標）地域と連携・協働した魅力ある教育の展開				
地域連携	学習の計画段階から地域と連携し授業の充実を図ることができるように連携協働する単元や協力者を具体的に提示したり打ち合わせの日時を調整したりする。	授業者と地域連携コーディネーターの打ち合わせ日を設定し、協働的な連携ができるように支援した。また、授業者の思いを汲み取ったり地域の意向を確認したりしながら、円滑に学習が進むように両者の相談を受けながら調整をした。	3.5	4.0
（R6重点目標）個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けたICTの活用				
学部	発達段階に応じて、ICTや支援ツールを利用して、気持ちを伝えたり考えをまとめたりする機会を設け、児童生徒一人一人に最適な学びを支える。	教科の学習だけでなく日生の中でもiPadの様々なアプリを活用する場面を増やすことができた。リモートで教室と離れた場所をつないで学習したり、Canvaを使って学習報告会でコメントを共有する活動を行ったりした。高等部では、休み時間も個人で使用できるようにルールを改め、生徒がICT機器に触れる機会を増やした。	3.5	3.7

成果	改善点
「知力」については、どの学部も学習内容に興味関心をもち、意欲的に学習する児童生徒が増えた。特に地域資源を活用した学習においては、児童生徒自身が学ぶ意義を感じており、主体的な学びにつながったと思われる。「ふるまい」については、道徳教育の充実を図ったり、全教職員で重点をおいて指導することを意識して支援したりすることで、他者を思いやる姿が増えてきている。「達成力/協働力/貢献力」については、自己評価や他者から評価を受ける機会を大切にすることで目標に向かって最後まで取り組む姿が見られるようになってきた。高等部では、6割程度の生徒が地域で自分の力を生かすことができると実感できた。	「教える教育」から児童生徒主体の「学ぶ教育」に転換していくため、学んだことをファイリングする方法を検討し、その後の学びにつなげていくことができるように工夫したり、児童生徒が小さなことでも「できた」「(自分が)役だった」と実感できるような授業づくりをしたりしていきたい。一人一人の学びを保障したりICT機器をコミュニケーションツールとして活用したりできるように、児童生徒に合わせたICTの活用方法をさらに工夫していきたい。また、地域とかかわる学習の年間計画を見直し、学習活動の充実を図っていきたい。

外部評価者からの意見（一部）

はまよう学校応援団として関わらせていただき、地域と連携協働した取組が非常に素晴らしいと感じました。／学校時間と地域時間には、どうしても調整困難なところがあるように感じています。／中高等部の授業で一生懸命に生徒さんは取り組んでいる。個々のレベルの違いはあるが、何とか頑張ってやり切ろうとする態度が見られる。／高等部の3年生が、卒業後のことについて語ってくれる姿に感動した。／性に関すること、スマホの使い方、最近事件が多いので、特に中学部、高等部に対しての指導強化をしてほしい。／はまよう応援団の取組がグランドデザインとどのようにつながっているか示されているとよい。／児童生徒さんとの挨拶や言葉遣いは良かったと思います。学ぶ意欲もあったように感じました。たまも市が盛り上がったのは、教職員の方やPTA、地域の方の努力があったのだと思いました。